巻　頭　言

2023 年 5 月 8 日に，国が新型コロナウイルス感染症の位置づけを【5 類相当】に移行し，3 年間にわたる日常生活上，特に対人関係上の様々な制約は無くなり，一見，新型コロナウィルス感染症パンデミック前に戻ったように思われた。しかし実際はそのように単純に元に戻ったわけではない。パンデミックにより ICT の利用が加速的に浸透し，アフターコロナでも学会主催の研修会がオンラインで継続されているなど，便利になった側面もある。しかし，アフターコロナで対人関係上の制約が無くなってもなお続く「孤独・孤立」が問題となっている。この背景には，人と人とを結ぶ様々な行事がパンデミック中に自粛され，アフターコロナでもそれらの行事が復活しないケースがあることも原因として挙げられるだろう。実際，学習開発学領域で学生と教員の交流の場として機能していた「卒業パーティー」や「謝恩会」といった重要な行事も，今年は復活しなかった。もう一つ，アフターコロナで「孤独・孤立」が続く背景に，コロナ禍での長期間にわたる人との関わりの自粛による個人の脳への影響も原因として挙げられる。孤立と脳の関係を扱っている多くの研究から得られた知見より，長期間にわたって他者と関わらない状況によって，脳が他者とつながる喜びを感じにくくなるのみでなく，他者に対する不安や恐怖を感じる脳活動が高くなることが示唆されている。

これまで「学習開発学研究」では，教育学や心理学を理論的な基盤とし，学校現場での対人関係の構築にかかわる研究も扱ってきた。これからもこのような研究が「学習開発学研究」に掲載されるであろう。アフターコロナでも続く「孤独・孤立」の課題の解消に，これらの研究が多くのヒントを与え，貢献することを期待したい。

「学習開発学研究」第 16 号

編集委員長　児玉真樹子